

記者発表（資料配布） 本紙を含めA4：2枚			
月／日（曜日）	担当部課名	電話番号	発表者名 （担当者名）
平成30年1月4日（木） 午前10時00分	健康福祉課 健康福祉推進室	0790-82-0661	室長 長峰忠夫 （室長補佐 時政典孝）

件名：昭和49年から続く佐用高等学校での献血活動

兵庫県立佐用高等学校では1月9日（火）に献血を実施します。

同校では昭和49年に初めて献血を行って以来、昭和55年から継続して献血活動に参加しています。このように古くから継続して献血を行っている事例は全国的にも珍しく、献血人口が減少する現在にあって、若い世代の献血推進へ貢献しています。

記

1. 日時 平成30年1月9日（火） 午前10時30分から正午
2. 場所 兵庫県立佐用高等学校（佐用町佐用260番地）
3. 内容 高校3年生希望者の献血、ボランティア部の献血活動補助
※同校での献血の歴史は別添資料をご覧ください。
4. その他 年末年始には献血者が減り、血液が不足します。献血への理解を広めるため、同校の活動取材して紹介していただけますようお願いいたします。
来校の際は、学校玄関にある事務室を尋ねてください。
5. 問い合わせ先
 - (1) 献血と同校での歴史に関すること
兵庫県赤十字血液センター 藤田嘉秀（よしひで）さん
☎079-294-5148
 - (2) 生徒の活動に関すること
兵庫県立佐用高等学校教諭 田中さん
☎0790-82-2434
 - (3) 記者発表の意図や経緯に関すること
佐用町役場 健康福祉課 時政典孝 ☎0790-82-0661

【献 血 資 料】

提出元：兵庫県赤十字血液センター
 姫路事業所長 藤田 嘉秀
 電話番号：079-294-5147
 職場携帯：080-3362-6954

佐用高校の献血の歴史

佐用高校には長い献血の歴史があります。特に昭和 55（1980）年から、ほぼ毎年続いている献血は、おそらく全国にも類のない年始の継続献血であり「高校生が人の命を救う素晴らしい伝統」になっています。

- 最初の学内献血は昭和 49（1974）年 5 月 21 日です。
 136 人受付で 109 人もの献血がありました。
 この時の 3 年生は 60 歳を超えておられます。
- 1 月 10 日頃に行われる年始献血は、平成 7（1995）年と平成 19（2007）年以外、毎年実施されています。※平成 17（2005）年は 1 月 25 日に実施。
- 輸血用血液には有効期間があり、献血バスでいただく全血献血（400mL・200mL 献血）の赤血球製剤は採血後 21 日間です。特に年明けは医療機関で一斉に輸血が行われることがあるため、一年中で最も輸血用血液の安定在庫に努める時期であり、この時期の献血は輸血を受ける患者にとってまさに「命の絆、宝物のような献血」です。
- 佐用町民の平成 28 年度の献血者数は 663 人で、献血率は総人口比 3.8%、16～69 歳人口比では 6.1%で、兵庫県の平均献血率の総人口比 3.5%、16～69 歳人口比 5.2%を上回っています。少子高齢化、過疎化の著しい地域ですが、高校時代に献血した生徒が「共助」の精神を持って、献血に来てくれていると思われまます。
- 佐用高校直近 5 年間の献血状況
 - 平成 29 年 1 月 10 日 （受付）56 人 — （献血）35 人
 - 平成 28 年 1 月 8 日 （受付）56 人 — （献血）42 人
 - 平成 27 年 1 月 8 日 （受付）37 人 — （献血）28 人
 - 平成 26 年 1 月 8 日 （受付）44 人 — （献血）40 人
 - 平成 25 年 1 月 8 日 （受付）35 人 — （献血）30 人
- 播磨地域では今後も高齢化や医療の高度化などで輸血用血液の使用量がますます増える可能性があります。しかし一方で少子化などで若年層の献血が減っています。佐用高校生の、このような長年にわたる活動は他の高校生献血の模範となります。

以上